

19<sup>th</sup>

丸山眞男文庫

記念講演会

申込不要・入場無料  
杉並区教育委員会後援

# 丸山眞男先生の 平和思想

## ゼミ生としての想いに重ねて

### 堀尾 輝久 氏

(東京大学名誉教授)

2019. 12. 7. Sat.  
15:00～16:30

東京女子大学24号館2階  
24202教室

東京女子大学丸山眞男記念比較思想研究センター

# 講師より

私は1953年度の丸山ゼミ(日本のナショナリズムとファシズム)に参加(3年生は私一人)、4年時は先生のご病気でゼミは無く、講義も家永三郎氏が代講した。幸い私は3年時に講義も受講し単位も頂いていたが、家永先生の講義も受講した。(後に家永教科書裁判で法廷証言することなど想像を超えている)なお4年時には尾高朝雄先生の法哲学ゼミ(カントの永久平和論)に参加した。この2つのゼミは軍国少年(靖国の子)として育った私の戦争と平和への向き合い方を変えた。

私は、丸山先生のご病気のこともあり、進路に迷ったが、もっと人間のことを考えたいとの思いが強く、教育学部の勝田守一先生(哲学)のもとで人間と教育の問題を考える道を選んだ。

修士2年のとき丸山先生の大学院のゼミが復活し、出席し報告(公民と公民教育)、その後もお宅に伺ったり、丸山先生の研究会(VGの会)に、自分の関心に応じて参加してきた。前半ではゼミやコンパでの記憶に残る先生のお言葉や思い出を語り、後半では先生の平和思想や9条への思いを語り、それを引き継いでいま私たちが取り組んでいる安保法制違憲訴訟の事や「9条地球平和憲章の会」についてお話をしたい。

## 講師プロフィール

1933年生まれ。1955年東京大学法学部卒、大学院人文科学研究科で教育学、教育哲学・思想専攻。パリ第5大学で学ぶ。東京大学名誉教授。日本教育学会会長、日本教育法学会会長、民主教育研究所代表、総合人間学会会長などを歴任。子どもの権利条約市民・NGOの会代表、9条地球憲章の会代表。著書に『現代教育の思想と構造』(岩波書店、1971年)、『人権としての教育』(岩波書店、1991年、増補版2019年)、『人間形成と教育』(岩波書店、1991年)、『日本の教育』(東京大学出版会、1994年)、『教育を拓く』(青木書店、2005年)、『未来をつくる君たちへ地球時代をどう生きるか』(清流出版、2010年)、『堀尾輝久対話集 教育を支える思想』(岩波書店、1993年)、『人間と教育 対話集』(かもがわ出版、2010年)、『堀尾輝久対談集 自由な人間主体を求めて』(本の泉社、2014年)など多数。フランス政府より教育文化功労賞(1994年)、Toulouse II 大学より名誉博士号(2008年)授与。

## 丸山眞男文庫



丸山自筆の講義ノート  
(丸山文庫所蔵)

丸山眞男の思索の跡を伝える約2万冊の蔵書と約3万頁の草稿類が、1998年に東京女子大学に寄贈されました。東京女子大学は、国際的な丸山眞男研究の拠点となり、貴重な資料がひろく活用されることを願って丸山眞男文庫を設立し、調査と整理を進めるとともに講演会、公開研究会、公開授業等を開催しています。

2012年4月より2017年3月まで、研究プロジェクト「20世紀日本における知識人と教養—丸山眞男文庫デジタルアーカイブの構築と活用—」を実施。2015年には、丸山宅での蔵書状況をウェブ上に再現した「丸山眞男文庫バーチャル書庫」(<http://maruyamabunko.twcu.ac.jp/shoko>)、丸山のノート・草稿類のウェブ閲覧を可能にした「丸山眞男文庫草稿類デジタルアーカイブ」(<http://maruyamabunko.twcu.ac.jp/archives>)を公開しました。

## 丸山眞男(1914-1996)



丸山眞男 YWCAにて(1949年)  
『丸山眞男集』第4巻(岩波書店)所収

20世紀の日本が生んだ世界的な学者・思想家。父・幹治は戦前の代表的政論記者。その友人・長谷川如是閑の薫陶をうけて育ちました。日本学士院会員、ハーバード大学・プリンストン大学名誉博士、東京大学名誉教授。主著『日本政治思想史研究』『現代政治の思想と行動』は数ヶ国語に翻訳され、広く世界中に読者をもっています。『日本の思想』は岩波新書中でも超ロングセラーの一つです。

南原繁の勧めで日本政治思想史を専攻し、徳川時代における近代的思惟の形成を実証して、この学問分野の確立に資しました。また治安維持法による検挙・勾留や一兵卒としての兵営生活の経験などをふまえ、近代日本の天皇制的精神構造を内側から分析し、「抑圧移譲の原理」や「無責任の体系」の仕組みを解明しました。さらに福澤諭吉研究を通して明治維新がもつ今日的意義を明らかにし、自発的結社を核としました「市民社会」の形成や「精神的貴族主義」の必要を強調しました。永久革命としての民主主義の主張、また戦後の大衆社会状況下での人々の原子化と大衆民主主義の陥穽(画一化)の指摘はこれと裏腹の関係にあります。米ソ冷戦の最中に、政治的リアリズムの観点から日本国憲法第九条のもつ世界史的意義を高唱し、国際秩序の再編を構想しました。

## ACCESS

- JR西荻窪駅北口より徒歩約12分
- 西荻窪駅北口または吉祥寺駅行きバス吉祥寺駅北口より西荻窪駅行きバス「東京女子大前」下車

